

■日時：2019年9月3日（火）17:00-19:00

■場所：徳島大学医学部基礎A棟1階 第一カンファレンス室

がんの悪性形質と 幹細胞の運命を左右する 細胞接着－転写因子連関

千葉 英樹 先生

福島県立医科大学医学部 基礎病理学講座 教授

本研究クラスターでは、がん発症進展機構の解明およびがんの創薬研究を推進している研究者を講師として招き、今後のがん医療についての理解を深めることを目指しています。今回は、病理学の観点から細胞間接着分子の研究にて数多くの業績をあげておられる千葉英樹先生にご講演いただきます。

■要旨■生体が組織・器官・臓器を構築し多種多様な機能を発揮するためには、細胞接着が必要不可欠である。細胞接着分子は「糊」として細胞を繋ぎ止めるのみならず、シグナル伝達の「ハブ」としてもはたらく。しかしながら、細胞接着シグナルの実体や寄与する細胞機能については不明な点が多い。本講演では、細胞接着シグナルが転写因子の活性を左右することによって標的遺伝子の発現を制御するしくみを紹介したい。今回はタイト結合分子クローディングによる細胞接着を起点とし、レチノイン酸受容体やエストロゲン受容体といった核内受容体スーパーファミリーを終点とする新規シグナル伝達経路を提示する。また、がん細胞がこの細胞接着－転写因子連関を乗っ取ることで悪性形質が増強される例を示す。さらに幹細胞が自身の細胞間接着分子の細胞外ドメインを切り出すことで、自らに利するニッチをつくり出すデータについても供覧する。

本セミナーは大学院特別講義（医科学・栄養生命科学・口腔科学教育部）を兼ねています。大学院生、教員、学部学生等、興味を持つ全ての方のご来聴を歓迎致します。

問合せ先：大学院医歯薬学研究部 生化学分野 教授 佐々木 卓也
sasaki@tokushima-u.ac.jp 内線 9223